

香川県農業・農村基本計画 令和3～7年度



農業の持続的な発展と活力あふれる農村づくりを目指して

本県は、南に連なる讃岐山脈から緩やかに傾斜した半月形の讃岐平野が広がり、一年を通して日照時間が長く、温暖な瀬戸内海式気候に恵まれています。一方で、古くから少雨に悩まされたものの、先人たちが築き上げた全国一の密度を誇るため池群と、網の目状に張り巡らされた水路に支えられ、農の営みや美しい田園風景が守り継がれてきました。近年では、優れた農業技術と創意工夫によって、収益性が高く、全国に誇れる高品質な農産物が栽培されており、県内はもとより、首都圏や京阪神地域などへ届けられています。

農業者の高齢化や減少、農産物価格の低迷、耕作放棄地の増加など、農業・農村を取り巻く情勢は依然として厳しい反面、脱炭素社会の実現に向けた世界的な潮流を背景に、食料の安定供給のみならず、SDGsや環境への貢献に対する期待も高まっています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、外食・観光・インバウンド需要の減少や家庭需要の拡大、国産志向の高まりといった消費者ニーズの変化が見られるとともに、田園回帰の再評価やリモートワーク・ワーケーションなど新たな働き方の浸透を追い風に、農村への人流が加速するなど、社会・経済構造や人々の価値観も変わりつつあります。

こうした状況や本県独自の特性を踏まえつつ、新型コロナウイルス感染症による影響を反映させるため、策定スケジュールを見直したうえで、令和3年度から5年間にわたって本県農政の基本指針となる「香川県農業・農村基本計画」を新たに策定しました。この計画では、「農業の持続的な発展と活力あふれる農村づくり」を基本目標に、「儲かる農業の推進」、「豊かな食の提供」、「魅力ある農村の実現」の3つを基本方針としています。従来の重要施策を継続しつつ、環境に配慮した農業の推進、農産物の輸出促進、スマート農業の実装といった時流のテーマにも取り組み、農業者のみならず、県民の皆様や関係機関と協働で、農業・農村の発展に向けた各種施策を展開してまいります。